

国語 - 3 (第2学年) 見付けたことを報告したり, それを聞いて感想を述べたりする事例

【学習活動の概要】

1	単元名	見付けたことを知らせよう	
2	単元の目標	学区域を探検して見付けたり気付いたりしたことの中から, 他者に知らせたいことを選び, 声の大きさに注意しつつ報告したり, 友達の話の大事なことを落とさないようにしながら, 興味をもって聞いたりすることができる。	
3	評価規準	<p>【国語への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学区域の探検で見付けたり気付いたりしたことを, 他者に伝えたいという思いを膨らませて報告したり, 友達の報告を聞きたいという思いをもって聞いたりしようとしている。</li> </ul> <p>【話す・聞く能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学区域探検で見付けたり気付いたりしたことの中から, 他者に報告したいことを挙げ, 一番伝えたいことを決めている。</li> <li>聞き手を意識し, 内容が伝わるように声の大きさに注意して話している。</li> <li>自分が聞きたい話の内容と, 相手が伝えたい話の内容の双方の大事なことを落とさないようにしながら聞き, 興味をもったことについて感想を述べている。</li> </ul> <p>【言語についての知識・理解・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉には, 経験したことを伝える働きがあることに気付いて, 話したり聞いたりしている。</li> </ul>	
4	教材	教科書教材, 探検カード, 写真, 地図等	
5	主な学習活動	(1) 単元の指導計画 (全5時間)	
	時	学 習 活 動	
		言語活動に関する指導上の留意点	
1	1	学区域探検をして見付けたことや気付いたことを報告し合う「探検報告会を開こう」という学習の目的をもち, 計画を立てる。	・「初めて気付いたこと」「不思議だと思ったこと」を集めるなど, 探検に向けての取材ポイントをつかませる。
2	2	グループに分かれて学区域探検をし, みんなに知らせたいことを見付けて, 絵や言葉を入れた「見付けたよカード」を書き貯める。(生活科との関連による指導)	・報告する材料を集めながら, 発見したものの特徴を列挙したり, 特に驚いたことを挙げたりするなど, 報告したい事柄を明確にできるようにする。
3	3	「見付けたよカード」を基にみんなに知らせたいことを選び, 報告する言葉を声に出しながら確かめたり, 友達の報告においてどんな点を聞いてみたいか考えたりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人で, またはペアで聞き合うなどして, 繰り返し声に出して, 伝えたい思いや事柄にふさわしい言葉遣いを考えるようにする。</li> <li>友達の報告内容について聞きたいという意識を高めるようにする。</li> </ul>
4	4	「探検報告会」を開き, 友達に知らせたいことが伝わるように話したり, 友達の発表を聞いたりする。本時 4 / 5	・報告する友達が一番驚いたことは何か, もっと聞いてみたいことは何かなど, 聞くポイントを確認する。
5	5		
	(2)	本時の学習 4 / 5 時間	
		探検報告会を行う。まず一斉学習の場で3名の児童が報告をする。それぞれの報告について, 他の児童が感想を述べる。教師は感想の述べ方や聞き方に重点を置いて指導を行う。報告と感想のやりとりを共有化した後, グループに分かれて報告し合うようにする。	

## 【解説】

### 【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・国語の第1学年及び第2学年「A話すこと・聞くこと」の指導事項「ア身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。」「ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。」「エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。」を取り上げて指導する事例である。

なお、前単元で、自分の聞きたいことをはっきりさせて聞くことに課題があったという学習状況を踏まえ、指導事項エに重点を置いている。その際、「A話すこと・聞くこと」の言語活動例「ア事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。」を通して指導することにより、指導の効果を高めた事例である。

### 【言語活動の充実の工夫】

聞く能力を育成する際、言語活動を通して、話すことと同時的・一体的に指導を進めることが有効である。本事例では、前単元までの説明や報告の学習において、話すことについて、材料を集めたり順序を考えたり、話し方をリハーサルしたりするなどの指導を重点的に行ってきた。その中で、説明や報告を受けて感想を述べることに課題が見られた。そこで、本事例では、聞く能力を確実に育成するために、以下のように手立てを工夫して言語活動を行うようにしている。

「大事なことを落とさずに聞くこと」の2つの側面の重視

「大事なことを落とさないように聞く」には、次の2つの側面がある。（『小学校学習指導要領解説国語編』p31 参照）

話し手が知らせたいと思っている事柄の大事なことを落とさないように聞く

自分が聞きたい事柄の大事なことを落とさないように聞く

この両面ともに、興味をもって聞くことができることを重視した指導と評価を位置付けている。

「聞くこと」の学習過程の明確化

「話すこと」には、「話題設定」「取材」「構成」「言葉遣い」「発音・発声」といった過程がある。同様に、「聞くこと」においても、最終的に聞く場面だけでなく、自分は何を聞きたいのか、どんなふうに聞くのか、どんな言葉遣いで質問や感想を述べるのかといった、学習の場面や過程を明確にして指導を行うことが求められる。

このため、児童が自分の話したいことを明確化しながら、「友達が何を見つけたのか聞いてみたい。」「自分はこんなことを詳しく報告するけれど、友達は何を詳しく報告してくれるのか聞きたい。」といった思いを、話すことの指導と並行して意識付けることが大切になる。本事例においては、「5主な学習活動(1)」などにそうした指導を位置付けている。

「感想を述べる」ことの確実な指導

低学年では、説明や報告をする場合、まず2人組やグループなど少人数の形態で学習を行う場合が多い。しかし、「感想を述べる」ことについての指導が十分になされないままグループに分かれて発表し合うと、指導の手がすべてのグループには行き届かず、感想が「声の大きさや速さ」「姿勢」などの指摘に偏ってしまう場合がある。

そこで本事例では、まず3名程度で、報告して感想を述べ合う場を設定し、教師が直接感想の述べ方について指導したり、感想を述べるための語彙を増やしたりすることで、十分に意識付けをした上で、実際にグループに分かれて報告したり感想を述べ合ったりするようにしている。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類： ,